

## 人はなぜ花を描くのか

鑑賞 + 表現【絵や立体に表す】

高学年 / 5 時間

## 題材の目標

画家が描きたかったことや工夫したところなどに関心をもって見る。

一番描きたいものがよく表れるように工夫して絵に表す。



「黄色い花」 南薫造



「花」 檜山武夫



「アネモネ」 水船六洲

**準備物** 【教師】鑑賞作品の複写, 画用紙, ペン, 筆ペン, パス類など  
【児童】水彩絵の具, 色鉛筆など

## 学習の展開例

学習活動	指導上の留意事項	評価規準
<p>教室を見渡して絵に描きたいものを探し, どうして描きたいのか話し合う。</p> <p>「花」を題材にして描いた作品を一点ずつ鑑賞し, 画家の気持ち, 描きたかったことなど話し合う。</p> <p>画家になった気分教室にある花を題材にして絵を描く。</p> <p>まとめ</p>	<p>日常的に教室に花を生けておくようにする。(鉢植えのものもよい)</p> <p>身近にあるものへの愛着や心の安らぎ, 美しさなど気づかせる。</p> <p>描きたいものをどのように表現しているか, 画面構成, 色合い, 筆触などを手がかりに画家の心情を想像しながら作品を味わわせる。</p> <p>画面の中に題材である花をどのように入れるか児童にはっきりと意図を持たせるようにする。</p> <p>描きたいことがよく表れている作品を紹介する。</p>	<p>作品の意図を想像したり, 同じテーマの他の作品を見比べたりして見る。</p> <p>自分の描きたいものがよく表せるように工夫して表現する。</p>

## 題材の意図と指導のポイント

### < 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、一人一人の個性がより一層作品に表れるようになり、同じ題材を描くにしてもその子らしい表現が表れます。

「花」を題材に絵を描いていきますが、「花」をどのように表現するのか児童の視点や思いを大切に表現させましょう。

### < 鑑賞の視点 >

同じ花を題材にしても画家によって描き方が異なります。描きたいことをどのように表現しているのか、それぞれの画家の個性を見ていきましょう。また、画家の気持

ちを想像したり、自分が感じたことを交流したりして鑑賞しましょう。

### < 指導の工夫及び配慮 >

3時間(1時間鑑賞+2時間表現)の授業計画なので、作品は8ツ切程度がよいでしょう。表現にかけられる時間数によって大きさを決めましょう。

身近にあるものを鑑賞し表現の題材にするので、教室の花は日常的に生けておきましょう。素敵な花瓶や敷物などが用意できた楽しく描けることでしょう。

児童の個性が発揮されるように、画材を児童に選択させることもできます。製作時間に合わせ表現方法も工夫しましょう。

みなみくんぞう  
南薫造

「黄色い花」 《油彩画, 1909(明治42)年, 60.0×45.0cm》

今から120年前の1883(明治42)年、現在の広島県豊田郡安浦町に生まれました。東京美術学校(現・東京芸術大学)を卒業後、ヨーロッパに留学(主にイギリスで学ぶ)しました。帰国後は、文展、光風会展、日本水彩展等に出品し活躍します。南薫造は「日本の印象派」とも呼ばれ、この「黄色い花」は留学時代に描かれており、明るい色彩と伸び伸びとした筆致は印象派の影響を受けてたことが伺われます。

ひやまたけお  
檜山武夫

「花」 《油彩画, 制作年不詳, 33.2×24.0cm》

1906(明治39)年、広島市大須賀町に生まれ、汽車の機関士をしながら風景、静物、人物などを描きました。特に鉄道に関係ある作品は愛着をもって描いていたようです。1932(昭和7)年26歳の若さで亡くなりましたが、彼は、自分が納得できるまで何度も何度も描き直したそうです。この「花」は、力強いタッチで描かれ花のもつ生命力を感じさせます。

みずふねろくしゅう  
水船六洲

「アネモネ」 《版画, 1945年~1948年頃, 37.2×24.7cm》

1912(明治45)年、広島県呉市に生まれ、本名は田中六洲といいます。日本では彫刻家として有名ですが、海外では版画家としても有名です。この「アネモネ」は、木版の多色刷りで表され、明るい色使いや花や茎の形のおもしろさ、花瓶になるグラスや敷布など画家の興味が何処へ向いているのかがよく表現されています。